

略 歴

棚島次郎（ぬでしま・じろう）

1960 年生まれ。横浜市出身。

1983 年 3 月 東京大学文学部社会学科卒業

1988 年 3 月東京大学大学院社会学研究科博士課程修了

91 年 3 月同研究科より学位取得（社会学博士）

1990 年 12 月、三菱化成（現「化学」）生命科学研究所入所

2000 年 6 月～02 年 3 月 熊本大学発生医学研究センター客員教授（兼務）

2002 年 4 月～04 年 3 月 三菱化学生命科学研究所社会生命科学研究室長

2004 年 4 月～07 年 3 月 科学技術文明研究所主任研究員

2007 年 4 月～2010 年 3 月 三菱化学生命研協力研究員

2006 年～2015 年 東京工業大学生命理工学部非常勤講師（生命倫理学概論担当）

2006 年 11 月～2020 年 3 月 自治医科大学客員研究員

2007 年 11 月～2017 年 6 月 東京財団研究員（非常勤）

2007 年 4 月～ **生命倫理政策研究会共同代表**

2015 年 8 月～2020 年 12 月 慶応大学医学部臓器再生医学寄付講座非常勤講師

2018 年 6 月～ NPO 法人市民科学研究室特任研究員

2018 年 9 月～2023 年 3 月 東海大学健康学部非常勤講師（生命倫理学担当）

2021 年 4 月～2022 年 9 月 慶應大学文学部非常勤講師（科学技術文明論担当）

現在に至る

専門：生命科学・医学の研究と臨床応用を中心にした科学政策論、文明論

著 書：

『優生学と人間社会』（共著、講談社現代新書、2000）

『先端医療のルール』（講談社現代新書、2001：NIRA 大来政策研究賞受賞）

『生命の研究はどこまで自由か』（岩波書店、2010）

『精神を切る手術 脳に分け入る科学の歴史』（岩波書店、2012）

『移植医療』（共著、岩波新書、2014）

『生命科学の欲望と倫理』（青土社、2015）

『これからの死に方 葬送はどこまで自由か』（平凡社新書、2016）

『もしも宇宙に行くのなら 人間の未来のための思考実験』（岩波書店、2018）

『先端医療と向き合う 生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020）

『科学技術の軍事利用 人工知能兵器、兵士の強化改造、人体実験の是非を問う』（平凡社新書、2023）

論文・論説

[2023年]

脳技術の軍事利用 人体実験に指針を（毎日新聞「ミニ論点」、2023/4/21）

先端技術は何をもたらすか(0)～(12)（聖教新聞 2023/7/4～12/19、隔週火曜掲載）

脳死判定 1000 例到達 不確実な医療頼らぬ姿目指せ（共同通信配信、西日本新聞 2023/10/29 など）

深化する生命科学と人工知能（AI）のコラボ（『現代用語の基礎知識 2024』ジャンル解説「生命科学」、2023/11）

[2022年]

殺傷兵器の自律化 軍事に AI 許すべきか（共同通信配信、神戸新聞 2022/1/20 など）

移植医療の「世界初」は「偉業」といえるのか（毎日新聞・医療プレミア、2022/6/1）

脳への介入どこまで？ 「ロボトミー」の教訓生かせるか（毎日新聞「拡張する脳」第 8 回、2022/6/3）

フランス「人対象研究法」の現在 研究管理の理念と、実務および EU の規制との調整の結果として（『臨床評価』50 巻 1 号、2022/6）

人工知能兵器は許されるか（『世界』、2022/7）

コロナ後を見据える生命科学研究（『現代用語の基礎知識 2023』、2022/11）

ニュースのおさらい AI 兵器（『現代用語の基礎知識 2023』、2022/11）

[2021年]

人生最終段階への医師のかかわり方～諸外国それぞれのありよう（『新薬と臨牀』70 巻 2 号、2021/2）

人工知能と人間の共存（読売新聞「あすへの考」、2021/5/9）

兵士の強化改造 どこまで許される？（『世界』、2021/5）

軍事関連人対象研究の倫理と管理のあり方（第 2 報）フランスの法整備と「強化兵士」意見書の分析（『臨床評価』49 巻 1 号、2021/5）

フランス生命倫理関連法・三度目の全体改正の分析（『時の法令』2132 号、2021/10/30）

生命の研究の拠りどころは何か（藤山知彦編著『規範としての民主主義・市場原理・科学技術』東京大学出版会、2021/10）

新型コロナウイルスと生命科学研究（『現代用語の基礎知識 2022』、2021/11）

フランス生命倫理法 30 年 見えてくる日本の課題（聖教新聞、2021/12/21）

[2020年]

楽園前夜または「中間世代」を生きる-文明論としての科学技術の倫理（『世界思想』47 号、2020 年春）

ニューロモデュレーションの倫理的課題（臨床精神医学第 49 巻 6 号、2020/6）

新型コロナウイルス禍のなかで（聖教新聞文化面、2020/6/16）

コロナ後の社会 自粛でなく自律が必要（共同通信配信、下野新聞 2020/7/8 など）
論点・新型コロナ 治療の選別 必要な覚悟（毎日新聞 2020/8/28）
生命科学研究とコロナウイルス禍（『現代用語の基礎知識 2021』、2020/11）
ニュースのおさらい ALS 患者囑託殺人事件（『現代用語の基礎知識 2021』、2020/11）

[2019 年]

生老病死を巡る問いかけ（聖教新聞文化面 2019/1/10～9/5、全 27 回）
人工知能と脳神経科学の倫理的課題（Brain & Nerve 第 71 巻 7 号、2019/7）
ヒト受精卵遺伝子改変 議論を（毎日新聞「発言」、2019/8/1）
死に方をどう決めるか（上）「尊厳死」と言わないで（真宗大谷派名古屋別院『名古屋御坊』2019/6）
死に方をどう決めるか（下）安楽死の是非（『名古屋御坊』2019/7）

[2018 年]

生殖補助医療に法律はいらないか？（時の法令 2018/1/30 号）
生まれる前の命にどう向き合うか 出生前診断をめぐって（時の法令 2018/2/28 号）
生命倫理を語る場をつくろう（時の法令 2018/3/30 号）
軍事関連人対象研究の倫理と管理のあり方（第 1 報）問題設定と米国の関連規定の分析からの基本論点の抽出（臨床評価 45 巻 4 号、711-725 頁）
「マイゲノム」時代における遺伝子研究の倫理（診療研究 538 号、2018/6）
精神を切る手術から今の精神医療の倫理を考える（尾崎紀夫氏との対談、Talk Schizophrenia Issue 40、2018/6）
ジャンル別用語解説 生命科学（『現代用語の基礎知識 2019』2018/11）

[2017 年]

ゆりかごから宇宙へ 人類文明最大の課題（岩波書店『図書』2017/4）
安楽死は悪いことか？（αシノドス vol.217・2017/4/1）
生命倫理は法律にしてはいけない？（時の法令 2017/4/30 号）
医学は学問か？（時の法令 2017/5/30 号）
生命倫理よりもまず職業倫理を（時の法令 2017/6/30 号）
インフォームド・コンセントは何のため？（時の法令 2017/7/30 号）
地域包括ケアを死後まで（聖教新聞 2017/8/10）
死んだ後まで地域包括ケアを（時の法令 2017/8/30 号）
軍事関連研究の管理と倫理（時の法令 2017/9/30 号）
来春施行の臨床研究法をどうみるか（法と経済のジャーナル 2017/10/17）
臨床研究の管理は「人体実験」に目をそむけてスキャンダル対応の歴史（法と経済のジャーナル 2017/10/24）
患者、被験者の人権を保護するためには、臨床研究を管理する法律が不可欠（法と経

済のジャーナル 2017/10/31)

臓器移植法二十年 最大の問題点 (時の法令 2017/10/30 号)

ジャンル別用語解説 生命科学 (『現代用語の基礎知識 2018』 2017/11)

書評『クリスパー』生物を変える秘めた力 (南日本新聞 2017/11/12 など)

人の骨や皮膚は売買していいか (時の法令 2017/11/30 号)

ノーベル賞と軍民両用問題 (時の法令 2017/12/30 号)

A brief note on the history of psychosurgery in Japan (Neurosurgical Focus 2017/9)

[2016 年]

倫理的側面から子宮移植を考える (Medical Torch・2016/5)

精神疾患に対する脳神経外科的治療 -日本での臨床試験が直面する課題 (臨床評価 44 巻 2 号、291-297 頁)

「望み通りの死」包括支援を (毎日新聞・2016/8/21)

ジャンル別用語解説 生命科学 (『現代用語の基礎知識 2017』 2016/11)

ルールなき臨床研究 (朝日新聞オピニオン面・2016/12/16)

[2015 年]

STAP 細胞騒動を問う (聖教新聞・2015/1/29)

論点スペシャル 実験的医療は法の下で (読売新聞・2015/2/10)

生殖補助医療法制化のあり方と生命倫理 (日本医師会雑誌・2015/5)

先端医療をめぐる欲望にどう向き合うか (ブリタニカ国際年鑑 2015・2015/4)

「精神外科」の過去と現在 (臨床精神医学 44 巻 7 号 931-937 頁)

献体と吊いのあり方の変化について (渋沢栄一記念財団『青淵』・2015/9)

被災地 15 万人 進む遺伝子解析 地域選定に疑問 (北海道新聞・2015/12/11)

[2014 年]

論点[STAP 細胞問題]科学の本筋通す姿勢を (毎日新聞・2014/4/11)

STAP 細胞問題 間違ふことは科学の本質 (下野新聞・2014/4/30 など)

生殖補助医療 どう法整備 「夫婦間」を含む条文に (日本経済新聞・2014/11/23)

臓器再生医療と生命倫理 (腎と透析 77 巻 6 号 904-908 頁)

[2013 年]

ノーベル賞と生命倫理と宗教 (中外日報・2013/2/5)

iPS 細胞は医療を変えるか? 応用への眼力養おう (朝日新聞・2013/2/26)

先端医療の生と死 1 ~ 1 0 (週刊仏教タイムス・2013/4/11 ~ 6/20)

人の親になるとは 生殖補助医療めぐる法律議論から (聖教新聞・2013/10/29)

人体組織も移植法の対象に (毎日新聞・2013/11/14)

[2012 年]

生命倫理サロンの試み 先端医療を語る場をつくる (聖教新聞・2012/5/1)
フランス人対象研究法 2012 年改正 「臨床研究」の新たな仕分けを主眼として (臨床評価 40 巻 1 号 71-77 頁)
〈iPS 細胞ノーベル賞受賞〉をどう受けとめたらよいか (世界・2012/12)

[2011 年]

WHO 移植指針 2010 年改訂と日本の課題 (移植・2011/345 巻 1 号 44-48 頁)
脳画像技術に法規制：フランス生命倫理政策の新動向 (科学・2011/9)

[2010 年]

心に残る一冊 渡辺格『人間の終焉』(科学・2010/7)
脳死論議の彼方にあるべきもの 生命観の基礎としての免疫学再考(現代思想・2010/7)
憲法の学問の自由と原子力・生命科学研究 (日本原子力学会誌アトモス・2010/8)
改正臓器移植法 3 ヶ月 適正な実施に欠かせぬ情報 (毎日新聞・2010/10/19)